

第482回（定例）福崎町議会会議録

平成30年12月18日（火）

午前9時30分 開 会

1. 平成30年12月18日、第482回（定例）福崎町議会は、福崎町役場に招集された。

1. 出席議員 13名

1 番	松 岡 秀 人	9 番	牛 尾 雅 一
2 番	柴 田 幹 夫	10 番	富 田 昭 市
3 番	三 輪 一 朝	11 番	小 林 博
4 番	北 山 孝 彦	12 番	石 野 光 市
5 番	前 川 裕 量	13 番	城 谷 英 之
6 番	河 嶋 重 一 郎	14 番	高 井 國 年
8 番	山 口 純		

1. 欠席議員 1名

7 番 木 村 いづみ

1. 事務局より出席した職員

事 務 局 長 木ノ本 雅 佳 主 査 塩 見 浩 幸

1. 説明のため出席した職員

町 長	橋 本 省 三	副 町 長	尾 崎 吉 晴
教 育 長	高 寄 十 郎	上下水道事業管理者	近 藤 博 之
技 監	吉 栖 雅 人	会 計 管 理 者	小 幡 伸 一
総 務 課 長	山 下 健 介	企 画 財 政 課 長	吉 田 利 彦
税 務 課 長	尾 崎 俊 也	地 域 振 興 課 長	松 田 清 彦
住 民 生 活 課 長	谷 岡 周 和	健 康 福 祉 課 長	三 木 雅 人
農 林 振 興 課 長	松 岡 伸 泰	ま ち づ く り 課 長	福 永 聡
上 下 水 道 課 長	成 田 邦 造	学 校 教 育 課 長	岩 木 秀 人
社 会 教 育 課 長	大 塚 久 典		

1. 議事日程

第 1 一般質問

1. 本日の会議に付した事件

第 1 一般質問

1. 開会及び開議

議 長 皆さん、おはようございます。
ただいまから、本日の会議を開きます。
ただいまの出席議員数は13名でございます。
定足数に達しております。
なお、本日の会議に木村議員から欠席届が出ておりますので、報告しておきま

す。また、木村議員は、本日、一般質問を通告されておりましたが、欠席のため、申し合わせにより一般質問はなしとします。

それでは、これより本日の日程に入ります。

本日の日程は、お手元に配付しております議事日程に記載のとおりであります。

日程第1 一般質問

議長 日程第1は、一般質問であります。

それでは、通告順に発言を許可いたします。

1番目の通告者は、三輪一朝議員であります。

質問の項目は

1、橋本町政について

2、自治会への補助金、交付金について

3、人口減少時代の起債について

以上、三輪議員。

三輪一朝議員 おはようございます。通告に従いまして、一般質問をさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

まず、最初に、橋本町政についてでございます。

橋本町長は、今年12月をもちまして町長につかれて3年目を迎えられるとともに、4年間の任期の締めくくりとなる1年を迎えられるということになります。選挙活動の折は、継承からさらなる発展を目指すということを申され、そして、それを実行されてこられました。そして、この3年間は選挙の折に出されました公約並びに福崎町の将来を見据え、福崎駅周辺整備事業を初めとした事業及び山積する課題に取り組まれてまいりました。その中で、この任期の最終年、4年目を迎えられるに当たりまして、3年間の実績につきまして町長ご自身でどのように評価をされているのか、ちょっと答えづらい中身なのかもわかりませんが、質問をさせていただきます。

町長 もう、質問議員も言われたとおりでありまして、こればかりは自分のことといたしまして、自分では評価をしにくいという事柄であります。評価をしていただくのは、質問議員を初め、この議場におられる議員の皆様方、また福崎町に対し協力をしていただいている委員の皆様方、住民の皆様方が評価するものというように私自身は思っております。

今、言われましたように昨日で丸3年を迎えました。本年から4年目に入るわけでありますけれども、この残された1年、一生懸命頑張ってまいりたいと、職員ともどもそのような形の中でお願いをしていきたいというように思っております。

三輪一朝議員 自ら評価をされにくいということは当然承知の上で質問させていただいたわけで、非常にありがたい答弁であったと思います。

次に、この橋本町政1期目の最終年度ということで、再三申し上げているわけですが、新年度、この4月からの予算につきましては、自ら評価をされていると思うのですが、その評価を踏まえたものになるとともに、何度も申し上げますとおり、任期の最終年度でもございます。行政需要は多方面にわたること、そして、町長も再三おっしゃっておられますように財政状況が非常に厳しいということがございます。ということで、どれもこれもというわけにはいきにくいという環境は重々承知しているわけではございますが、その選択と集中が求められると私は思っているのですが、新年度予算にどのように反

映をされてまいるのか、お尋ねいたします。

町 長 これら等、国・県ともに、今、予算をつくっている段階であります。その方向性を見きわめながら、福崎町にとって何が必要なのか、そういう事柄も非常に大切になってまいります。しかし、福崎町のことばかり言うておるわけではございません。学校施設、これら等、長寿命化計画に沿ったような形の中で、年度も決まっておりますし、その年度内における分野で、これら等、整備をしなければならない。また、県におきます中播磨地域、神崎郡3町、昨日も但陽信用金庫を踏まえた、「官」と言うんでしょうか、それと商工会は「民」に該当すると、それから但陽さんが入っておられるんですが、これが「金」に該当すると、そういったような形の中でお互い情報交換をしながら、お互いの町の役割等々も検討を加えていかなければならないといったような話をさせていただきました。それら等は非常に大切な事柄だと私自身も認識をさせていただきました。

福崎町は、今現在におけます分野では非常に活力があふれております。工業製品の出荷高が、一人頭で言いますと県下で1位、昼間人口比率、これも県下1位。小さな町でありながら、こういったような事柄も含めた形の中で、そこへなおかつ、これら等、柳田國男先生、吉識雅夫先生、これら等を踏まえた形の中で、不易の部分と、今現在おいております流行の部分、そして特産もち麦といったような形、特に特産もち麦は大妻女子大学の池上幸江先生が特産品もち麦の効能、βグルカンですか、非常に腹の調子がいいといったような形の中での、NHKで講演をしていただいて、そこから爆発的に人気が出てきたという形になっております。大麦、小麦ともに春の雨に非常に弱いと言われておって、つくりにくい、特に大麦のもち麦はつくりにくいと言われておりますけれども、新しい開発、そういったような事柄も研究をしていただいておりまして、これら等はもう研究も終わり、試験田でつくっておるという状態にもなっております。それら等を踏まえた形の中で、これらもち麦を含めた形の中で、2次、3次、そして6次といったような、1次、2次、3次、6次の産業をバランスよくこしらえていくのは福崎町であろうと思います。それは地の利を生かしたような形の中で、ちょうど兵庫県の南西部に位置しておるわけでありましてけれども、交通が非常に利便がいい、交通の要衝であるといったような形、これら等を使った形の中での取り組み等々は皆様方とともに福崎町をつくり上げる一つの大きな、どう言うんでしょうか、福崎町の特長であるといったように思っております。

三輪一朝議員 今、町長がおっしゃられたことも継続的な努力、そして国立人口問題研究所が発表しておりました人口につきましても、兵庫県の中で福崎町が一番高い、残存率と申しますとちょっと言葉的に不適切なのかも知れませんが、人口の減少率が非常に少ないというところでもあらわれつつあるのかなと思います。ですが、それは将来のことを国が申しているのでありまして、町、また町民挙げて、そういったまちづくりに努力を継続してまいりたいと思っておりますので、町の皆様方もどうぞよろしくお願ひしたいと思うのであります。

そうしましたら、次の質問に移らせていただきます。

自治会への補助金、交付金についてであります。

町内の各自治会の発展及び機能維持につきましては、町域の発展と不可分であります。また、各自治会の事業遂行、いろいろな事業を各自治会でやっているわけでありまして、そういった事業に町から補助金並びに交付金を支出いただいております、自治会ごとの発展というものに寄与していると思っております。

その中で、補助金、交付金の代表的なものに、その中で公民館新築増改築の補助金、そして2つ目として自立のまちづくりの交付金、そして3つ目として消防施設整備事業などがあります。こういったいろいろな補助金、交付金があるわけなんです、町が自治会に補助金、交付金を支出されている事業数は幾つあるのか、お尋ねいたします。

企画財政課長 事業数ではございませんが、自治会公共用施設整備事業補助金、自立のまちづくり交付金など、自治会が補助金、交付金の対象となる補助金は7つございます。

三輪一朝議員 今、7つということでお答えをいただいた中に、私が申し上げた中身も入っているのだと思います。そうした7つということではありますが、この補助金、交付金、町から支出いただいておりますが、支出のタイプといいますか、大きく分けられるのではないかと考えております。その1つは人口とか戸数の規模の対応型と自分で名付けたわけなんです、それと人口・戸数の規模に非対応になっているのではないかと、この2つに分類されるのではないかと考えております。

その1つが今から申し上げるもので、先ほども申し上げました中で、人口・戸数規模対応型とっておりますのが自治会公共用施設整備事業ということで、公民館の新築及び増改築の補助金に当たろうかと思っております。建屋の面積とか規模は各自治会で選択ができますので、ということで、建屋面積規模で補助金額が異なるというメニューになってございます。そうしたことで、建屋規模ニアリーイコール自治会の戸数規模と考えられるとしますと、集落ごとの1戸当たりの住民負担の均平化というものに結びついているのではないかと考えております。

そして、次に、こちら戸数規模の対応型ではないかと考えているのですが、自立のまちづくり交付金事業でございます。これは、基本事業として一律の3万円、そして自由事業では均等割が4割、そして残りの6割が世帯数割という、こういった配分のメニューで、自治会の戸数規模というものを意識した中身で、そういった形で交付されているのではないかと考えてございます。

ということで、均等割なり基本事業の一律ということがございますので、少人口、小規模戸数の自治会に手厚い構造に根はなっているのではないかと考えております。

そして、今度は人口戸数の規模に非対応といいますか、結果的にそうになってしまっているということで考えているのですが、消防施設の整備事業がそれに当たるのではないかと考えております。これは、自治会規模の大きい小さいにかかわらず消防用小型動力ポンプと軽四の積載車を選択していらっしゃる場合が非常に多いという現状がございます。補助額といたしましては、事業費の3分の1と75万円というメニューになっておりまして、現行の物品価格では半額程度の自治会負担、つまり半額程度の町からの補助が出ているということになります。先ほど自治会規模にかかわらず小型動力ポンプと軽四積載車の採用自治会が多いと申し上げましたが、結果的に自治会規模の小さい自治会ほど1戸当たりの負担が重くなっているということになってしまっているということがあろうかと思っております。例えば300戸と100戸の自治会では、1戸当たりの負担が3倍違うという、単純計算なんですができるのではないかとということになります。これは、構造的に、1つ目に各自治会では小型動力ポンプと軽四積載車から、ほかの機材への選択の幅が小さいからという点があるのではないかと。また2つ目に小型動力ポンプと軽四積載車自体の価格の幅が小さいというふう

な、そういった特殊な事情があるからというふうな認識もいたしております。

申し上げました公民館の新築及び増改築、そして自立のまちづくり交付金事業、そして最後に申し上げました消防施設整備事業につきましては、この3つの例では町の支出の体系から自治会ごとの住民負担の均平化を狙ったもの、特に自立のまちづくり交付金事業はそうであろうと思うのですが、そうではなく結果的に自治会ごとの戸数規模の大小問わず同額の補助金、交付金となってしまうというものがあるのではないかと思います。

そして、さきの質問で補助金、交付金の支出事業数は7つだということで答弁を頂戴したのですが、町が自治会に支出する補助金、交付金の支出におきまして、言いかえれば戸数規模、一律金額となっている事業数、また戸数等の規模に応じた金額の支出となっている事業数はそれぞれ幾つあるのか、お尋ねいたします。

町 長 まず、私のほうから基本的な方向を。今までの福崎町の歴史があります。その歴史の中で今の制度ができておるわけでありまして、それら等、先ほどから何回も話を聞いておりますけれども、人口減少時代における分野でその地域、地域がといったような形の中でのあり方等々につきましては、言われるとおりのところもございます。しかし、これら等は行政側がつくったのではないしに、これら等、自動車ポンプそのものが国の予算からなくなったということもありまして、それら等に応じた形で、今度、県が軽四積載車であればといったような形、そしてポンプにつきましても可搬式ポンプであればといったような形の中での対応を言われてきました。そういう考え方を含めた形の中で、いろんな形、角度から検討を加えていただいたわけでありまして、その中で今の戸数の大小を問わずしてそういったような形の中で、自分のところの分野については自分らで守るんだという、そういう姿勢が出てまいりました。そういう形を採択したというんでしょうか。方向性を消防自らがつくっていただき、それら等に応じた形で対応するようになったわけでありまして。

それとともに、自治会に出す補助金、自治会公共用施設整備事業補助金等々ございます。公民館施設につきましては、戸数等々問わずして、それら等の大きさ、そしてそれら等に応じた形の中での、社会資本といったような形を含めた形の中での対応のあり方をお願いしているところであります。町単土地改良事業等々なんかは率で決めて、その大小を問わずしてその益を受けるというんでしょうか、そういう事業等々にも活用していただいているところであります。また、自治会単位における学習会でありますとか、そういったような事柄、そしてこの3年間行いました集落懇談会等々につきましても、そのことの大小は問わずしてという形をとらせていただいているところであります。

一方、自立のまちづくり交付金事業等々につきましては、これもう言われておるとおりでありまして、その中における分野という形になっております。

実は、来年度、7年目に入ります。これら等につきましては、律する律はもう各集落で立ち上げをしていただいておりますものと私自身は考えておりまして、これからの立は、自らが行動を起こし、その地域がどのようになっていくのかといったような形の中での見きわめをさせていただきたいというように思っております。これら等につきましてもヒアリング等々を含めながら対応していくという形になろうかと思います。

いずれにいたしましても、補助申請者でありますその自治会がよりよいような形の中でといったような形、また今、三輪議員が言われておりますように、そういったようなご質問をいただき、区長会等々にも諮りながら、それら等、よ

りよい方向が出てくれば、それら等は採用していくといったような形で進めてまいりたいと、このように思っております。

三輪一朝議員 先ほどの町長の答弁で次の質問、また次の質問の中身を全ておっしゃっていたという、非常にありがたい中身であったと思います。ですので、自治会の要望をというところを十分期待して、この質問を終わりたいと思います。

私から最後のテーマというか質問でございます。

3つ目の人口減少時代の起債ということで質問をさせていただきます。

本町は、戦後、人口増加をたどった数十年間と、その後は現在に至ることになるんですが、人口が停滞といいますか、微増というところの表現がいいのかもしれませんが、そういった数十年間を経験してきてございます。

起債ということでは、人口増加時代には増加後の人口での起債の償還ということになるということ。また、財政規模が拡大する環境でも当然ございましたので、償還開始時点より償還完了前のころ、そのあたりでは人口1人当たりの負担額が結果的に軽減されるという、そういった構図であったであろうと思うのであります。

前段の質問でも途中で申し上げましたように、国立社会保障人口問題研究所が今年発表した、2045年時点の本町の将来人口推計値では、1万8,805人というところで、兵庫県の中で一番全人口の減りようが少ないということとはいえ、現在の人口から減少するということとされております。

その中で、起債につきましては、償還期間が長期にわたるものにつきましては、最長25年、あるいは30年に及ぶものも、現在償還をしているものもでございます。2045年の将来人口の推計値における1人当たりの償還負担額ということでもし考えてみますと、財政に関連するその他の条件の変化がないと仮定いたしますと、5%ほど上昇することになると、単純計算でなるのではと思っております。ほかにも当然人口が減少しますと変わってくるわけなんですけど、そうしたふうに、実際は将来的に人口減少によりまして普通地方交付税が減少して、歳入が縮むであろうということから、交付税算入率の高い起債を選択するということではお聞きをしておりますが、そうは言うものの、人口1人当たりの償還額の占める比率が高くなる構図、言いかえれば、償還の年度予算に占める割合が増えてくるというふうなことになるんじゃないかと思っております。

そこで、お尋ねをしたいのですが、過去の起債におきましても今後の起債におきましても、償還期間が長期にわたり継続するものがあるかと思います。その中で、財政的影響が出てくると思う中で、大きいと思うのが、個人住民税の所得割納税者の人口がやっぱり減ってくるだろうと思うのです。それは大きな数字になるのか、小さな数字になるのかわかりませんが、影響を及ぼすこととなるだろうと思うのですが、そういった環境の中で、町長もよくおっしゃいます自治体の持続可能な経営というところの観点、そして住民負担ということ、その分、住民サービスに回すものも難しくなってくるということになってくるかと思うのですが、そういったことで、起債の発行につきまして、中長期的な方針、また方向性につきまして、本町におきまして議論はなされたことがあるのか、お尋ねいたします。

町長 これは、企画財政課が中心となって、毎年、それぞれ基本計画に基づくそういったような事業をどのように進めるのかといった計画を立てていただいております。その中での財源のあり方といったような形になるかと思うわけでありましてけれども、その中におきます分野、先ほども学校長寿命化計画、こういったような話が出たわけですが、当時、非常に起債制限比率、公債費率、高かつ

たといったように聞いております。非常に厳しい財政状況の中における分野でそういう義務教育施設をしなければならなかった。

今現在におけます福崎町でも同じであります。住民の皆様方に快適に生活していただくためのそういう施策はとっていかなければならない。また、子どもたちが健康でと、お年寄りが健康でといったような形を整えていくといったような形になろうかと思えます。ソフト事業、ハード事業問わずして、そういう住民の皆様方の生活の根幹にかかわる分野については、福崎町は頑張っていきたいというように思っております。

これも一般質問でいただいた事柄でありますけれども、保健センター、今は月曜日から金曜日まで5日間といったような開庁のあり方でありますけれども、実は今、基本計画をつくっておる中におきまして、月曜日から土曜日まで住民の皆様方に対応していこうと。これは子ども子育て関係、少子化関係を含めてでありますけれども、そしてお年寄りにつきましては、地域包括ケアシステムといったような形の中で相談に乗らせていただくという形で保健センターも頑張りたいと。実は、保健師を1名雇い入れをするといったような方向も出させていただいております、そのまま福崎町に勤めていただけるならば、そういったような事柄にも対応していけるという形になるのではないのかなというように思っているところであります。

当然、三輪議員の言われる、財政が悪化する起債等々の発行における償還、これら等が、将来にわたる経常的な住民サービスを阻害する原因になるのではないのかといった形で言われておりますけれども、これは長寿命化計画における起債総額の総量等々につきましても、これら等、報告をし、ご承認を得て、これら等、運営させていただいているところであります。

なお、水道でありますとか、工業用水道、そして、公共下水道、これら等の年限が非常に長くなっております。都市部では入れ替えといったような形で、今、非常に大変な時期を迎えておるそうでありますけれども、福崎町、ようやくそれら等に対応できるような形になりました。それら等を踏まえた形の中で水道、工業用水道、公共下水道も含めてでありますけれども、それら等、財政運営等々を加味しながら計算を立てていただき、料金体系も住民の皆様方の納得できる範疇でお願いをしているところであります。

なお、三輪議員が心配されておりました個人納税の関係でありますけれども、これは国の租税の関係でありまして、福崎町がというような形にはならないと。よっぽど悪い財政状況にあるのであれば、そのような形にもなるのかもわかりませんが、福崎町、普通のまちであります。財政的にも厳しいといったような形の中でありまして、そういったような形を堅持できるだけの力を持っておるといったようなところがありますので、それら等のご理解をお願いしたいと思います。

三輪一朝議員 町長が申されましたことについては、当然おっしゃるとおりであろうと思うのであります。その中で、最後の質問に入るわけなんです、財政的にもっとも厳しくなった場合というケース、万が一ということで、町長、何を考えているのだということでおっしゃるのかもわかりませんが、将来的な急激な人口減少とか、どうしようもなくなった場合、財政的な変化が見通せたりとか、起債の総量ですとか町の事業全体ということで影響が出てくるのだらうと思うのですが、そういった場合において起債の総量を規制するというか、考えていくという、そんな選択肢が万が一の場合は出てくるのか、そこまでちょっと心配しておきたいなということで質問させていただきます。

町 長 もう質問議員さんもお承知のように、日本の国の経済動向が変わってまいりました。また、エネルギーのあり方も変わってまいりました。そういう中におきます分野につきましては、石炭が掘削されるといったような形、これら等は北海道でも九州でも同じような状況でありました。それら等がエネルギーが変わってまいりますと、そういったような産業が衰退する。当然、人口も減っていくといったような形の中、中には夕張市みたいに非常に財政悪化と、それで一応、どう言うんでしょうかね、財政をちょっと自分とこの都合のいいような解釈をしながらと、一時借入れを年度間同士合わせながら使ったといったような形で、その年度、その年度の会計をつけていくといったような形でやっておりました。いずれはもう破綻するのは担当者を含めよくわかったおった事柄だと思います。現在、立ち直りをするために、今、言われておりました個人負担分を若干増やしたり、そういったような形の中、新しい施設は全くできない。学校の天井はもう穴があいたままと、道路は穴ぼこだらけといったような形の中でも元気に頑張っておられると。夕張メロンとか、そういったような新しい事業等々にも着手しながら頑張っておられますので、そういったような人間の力というんでしょうか、そういったような形の中で働きが出てくるというような形であります。

なお、元金等々含んだ形の中で、それら等はもう当然長期的な展望でありますので、短期的な展望で一時的にどーんといったような金の使い方は福崎町、もうしたことはありませんし、そういったような形の中における分野につきましては、必ず議会を含めた形の中で検討をしていただくような形になろうかと思います。いずれにいたしましても、福崎町の取り巻く環境は、今、三輪議員が言われたような環境にないと、総量規制等々、そういったようなものにかかるような形にはなりにくいと。当然、人口が減ってきますので、それら等、総量分を含めて当然図っていくというのが財政担当者の使命でもありますし、私も財政担当二十何年もやらせていただいておりますので、そういったような形の中での取り組みは財政担当とともに考えていきたいというように思います。

いずれにいたしましても、今、三輪議員が言われたような事柄にはならないのは、これはもう事実であります。

三輪一朝議員 私が今、申し上げた質問につきましては、他自治体では人口が2045年では四十数%減る自治体があって、そこでは病院の建て替え、十数億とか言われております。そこは合併しておりますので特例債の枠をいっぱい使った、国が見てくれるとはいえ、それが膨らんでいる。そういったところから、町長がおっしゃいましたように、その心配はまず小さいだろうと、ないとは申し上げませんが、その中で行政の安全性といいますか、そういった観点から質問をさせていただいた次第でございます。

以上で、一般質問を終了させていただきます。

議 長 三輪一朝議員の一般質問を終わります。

次、2番目の通告者は、牛尾雅一議員であります。

質問の項目は

- 1、福崎駅周辺整備事業及び関連事業について
- 2、まちづくりについて
- 3、前回の質問について

以上、牛尾議員。

牛尾雅一議員 議席番号9番、牛尾雅一でございます。議長の許可をいただき、ただいまから一般質問をさせていただきます。

1 点目の福崎駅周辺整備事業及び関連事業について、お尋ねしたいと思います。

まず、平成26年度から着手されてきました、福崎町の玄関口であり、交通拠点をつくる福崎駅周辺整備事業とその関連事業について、お尋ねしたいと思います。

都市計画道路の町道福崎駅田原線の延伸についてでございます。福崎駅田原線の延伸につきましては、道路計画の見直しによって地元自治会に向けた説明会の開催や、兵庫県との調整を図るとのことでしたが、その後の進捗はどのようなになっていますでしょうか。あわせて、延伸工事を進めていかれるに当たって、財源はもちろんでございますが、用地買収などでどのような課題があるのか、お尋ねいたしたいと思います。

まちづくり課長 町道福崎駅田原線は、町道馬田山崎線までの100メートルの整備を進めております。駅周辺整備の整備効果を高めるために、駅へのアクセス道路の整備がさらに必要であると考えております。現在、町道馬田中央線、町道千束新町線を活用いたしまして、もとの播州信用金庫のあったところの国道312号の交差点までの拡幅整備ができないか、最適な道路法線を含めて検討を行っているところでございます。道路延伸の計画については、駅前と馬田の自治会の役員会等に説明をしてまいりました。県とは、社会資本整備総合交付金を活用いたしまして、早期に実現が可能な手法についての協議を行っております。用地買収では、できるだけ支障物件を避けるような道路線形の検討も必要であると考えております。

牛尾雅一議員 わかりました。

続きまして、県道甘地福崎線の道路の改良についてでございます。

この事業は、県が担当されていると思いますが、県道甘地福崎線は通勤通学の時間帯を中心に多くの町民の方、また町外の方も利用をされている交通量の多い道路でございますので、確認をさせていただきたいと思います。県道甘地福崎線は、福崎高校前の踏み切りから北側の幅員が狭く、車両、歩行者ともに非常に危険であり、交通事故も発生しており、早期の改良が必要であると地元自治会や県立福崎高校からもたびたび要望があった箇所でございます。県事業の推進状況のご報告をお願いいたします。

まちづくり課長 県道甘地福崎線の北工区、延長320メートルの整備につきましては、平成29年度に事業着手をしております、平成33年度までの5カ年の計画で進めております。3月27日と9月19日に地権者等へ説明会を行いまして、現在、用地の境界立ち合いを行っておるところでございます。県によりますと、今後、県の予算配分の状況によりまして、用地買収を進めまして、ある程度まとまった用地が確保できたところから工事の着手に入っていきたい、このように聞いております。

牛尾雅一議員 大変多くの方が早期の実現を望まれておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

続きまして、駅前で開催されておられます福崎〇〇まるしえについてでございます。これは、昨年度から始まった軽トラ市の流れをくむ試みと思いますが、私も前回行かせていただきました。おいしいごはんというんですか、カレーもいただきました。JR福崎駅で電車を降りられた会社員の方、福崎高校の部活帰りの生徒さんなどで大変にぎわっていた印象でございました。大変いいイベントでございますので、もっと地元のお店の方にも出店をしていただけるように、そしてもっと福崎町の地場産業をアピールできるように、また、駅利用者を初め住民の方にもたくさんお客さんとして来てもらえるように規模を拡大してい

ただいて、継続的に行っていただきたいと思います。この福崎〇〇まるしえについて、今後の運営計画、事業者や住民の方への働きかけなどについてどのようにお考えなのか、お尋ねいたします。

地域振興課長 駅前での福崎〇〇まるしえにつきましては、整備が進む福崎駅周辺に地域のにぎわいと活性化につながる取り組みとして実施している事業で、現在は行政が主体となってイベントの企画から実施、広報等を行っております。将来的には、民間の事業者が主体的に事業に取り組んでいただくことが継続的な地域活性化につながると考えておりますが、それまでは行政や福崎駅前交流広場の指定管理者が主体となって運営していきたいと考えております。

なお、事業者や住民への働きかけにつきましては、事業を実施していく中で周知を図ってまいりたいというふうに考えております。

牛尾雅一議員 よくわかりました。ますますの駅前というんですか、にぎわいづくりに大きく貢献される取り組みというんですか、催しになればというふうに願っております。

続きまして、福崎町の観光スポットであります辻川界限、その再開発についてお尋ねしたいと思います。

ここ数年は、観光客の方も右肩上がりで伸びており、非常に好評を得ているということで、大変喜ばしい限りでございます。このような中、観光拠点に隣接する養護老人ホーム福寿園については、施設の老朽化も進んでおりますので、建物を取り崩して移転し、そこに観光施設を整備するといった案は検討されているのでしょうか。

健康福祉課長 福寿園につきましては、老人福祉法に基づきまして設置しておりまして、今後高齢化が進む中での役割は大切であるというふうに考えております。現在、具体的に廃止や移転の案を検討しているわけではございませんが、入所者50名弱の生活の拠点、あるいは雇用の場となっております、議員ご提案の民間活力の導入なども視野に入れまして、慎重に対応していきたいと考えております。

牛尾雅一議員 施設の存続というんですか、それは入所者の方のためにもぜひ存続が、私個人としては大変いいことと思っていますので、移転が一番ありがたい施策だと思っています。移転が実現しましたならば、跡地を活用して、さらなる観光振興が図られると考えますので、よろしくお願いしたいと思います。

続きまして、2点目のまちづくりについてお尋ねいたします。

これまで、私は、まちづくりに関するハード事業についていろいろと質問をさせていただきましたが、今回は各事業における事業計画と具体的なスケジュール、進捗状況についてお尋ねしたいと思います。

まず、播但連絡道路右南ランプ交差点の改良についてでございます。この箇所については、播但道路の乗り口、降り口ということもあり、自動車の交通量が大変多く、渋滞が慢性化しており、また一方で東中学の通学路でもあります。また、台風や大雨のときには冠水する箇所でもあります。この福崎南ランプ交差点の改良について、11月29日の入札で株式会社セイトーさんが落札されております。この工事は、どのような内容になりますか。また、関係機関との協議はどのようになっているのか、また進捗状況もわかればご報告をお願いいたします。

まちづくり課長 福崎南ランプの交差点改良につきましては、公安委員会との協議では右折車線の設置については認められておりません。北側歩道の境界ブロック、これを1メートル北へ移動させることで、北側の道路車線の幅員、現在の有効幅員は4.

5メートルでございますが、これを5.5メートルに拡幅いたします。このことによりまして、交差点内に右折待ちの普通車が四、五台とまっておりますが、普通車であれば追い抜いていくことが可能となりますので、渋滞がかなり緩和できると考えております。工事の進捗率につきましては、現在、工事の準備中ということで10%程度でございます。

牛尾雅一議員 そのようにしていただきましたら、非常に近辺の、あそこで渋滞して姫路方面に行くときに大変時間を要するといらいらされて、交通事故とかにもつながりますので、大変ありがたいと思います。特にその近辺はいろんな商業施設もあって、出入りが大変多くて、夕方は非常にまたいろんな車が入り出しますので、よろしくお願いしたいと思います。

続きまして、南大貫交差点の改良についてでございます。この箇所も交通量が大変あり、また道路が広いという、東西南北の道路が大変広いので、かなりのスピードを出しておられる車両を多く見かけ、重大な交通事故も過去たびたび発生しており、また八千種小学校、東中学校の通学路でもありますし、非常に危険な箇所でございます。

11月6日の入札で株式会社松本組が落札されております。この工事はどのような内容になりますか。また、関係機関との協議などはどのようなになっておりますか。また進捗状況もご報告をお願いしたいと思います。

まちづくり課長 町道の東大貫溝口線、南大貫交差点改良の工事の内容でございますが、信号の設置要望を行っている交差点に接続する里道がございます。これを停止線の後ろに振りかえを行うというものでございます。町道東大貫溝口線と町道大貫山田線の交差点において、信号の設置要望を行っていく中で、公安委員会のほうから、五差路になっている交差点では信号の採択がしにくいという指摘を受けております。こういった採択を受けるための条件整備を行うもので、ただ、採択の確約をいただいたものではございませんので、引き続き信号設置を要望してまいります。現在、水路の入れ替え工事を行っておりますが、進捗率で申し上げますと20%程度でございます。

牛尾雅一議員 この交差点は今までも大変、さきにも言わせていただきましたように大きな事故が発生しておりますが、今回の交差点改良をしていただくことによって、またその後の交通安全対策をしていただくことによりまして、交通事故のない交差点となることを願っております。

次に、辻川歩道橋についてでございます。この歩道橋は、田原小学校の通学路となっておりますが、かなり老朽化しており、子どもさんが渡るのを怖がっておられるという声も聞きます。また、高さが低く、秋祭りの屋台の運行の支障にもなっているとの声も聞きます。町内には、歩道橋があと一つあると思います。それらの点検を定期的に行われていらっしゃるのか。もし、安全性の確保に少し疑問があるようなことがあれば、早急に補修や改良を要望いたしますが、ご答弁をお願いいたします。

まちづくり課長 町内にはご質問の辻川の歩道橋、それと播但連絡道路に架かっております福崎インター歩道橋の2橋がございます。現在、福崎町の道路橋の定期点検で点検を実施しております。橋梁点検の結果を受けまして、必要な修繕がありましたら、その予算を要求してまいります。

牛尾雅一議員 辻川のあそこは町道で非常に多くの車両が行き交いますので、最善の方法を、今、課長さんの答弁にありましたように考えていただきたいというふうに思います。

次に、月見橋の改良についてでございます。月見橋は、町内の方、当町では山

崎地区の方が役場方面に来られるときに非常に多く利用されると聞きます。また、市川町南部の方が駅方面への通行、また帰路というんですか、帰られるときに自転車や自動車で多くの方が利用されると聞いています。しかし、幅員が狭く、自動車1台が通行できるのがやっとという状態でございます。現在の月見橋のベースはそのままに維持し、橋に横づけする形で自転車、歩行者用の通行路を増設することはできないでしょうか。県との河川協議、建築物の構造的な観点から実現が可能なのかどうか、お尋ねいたします。

まちづくり課長 ご質問の橋側歩道橋の設置についてでございますけれども、河川協議についてはまだ行っておりませんが、平成24年から26年に実施いたしました長野橋の橋側歩道橋がございます。これは設計も含めまして8,600万円程度必要でございました。月見橋は橋長がこの長野橋の倍以上でございます。そして、橋脚も非常に大きくなることから、単純計算でも2億円を超えるような膨大な工事費が必要と思われまして、財政的にも実現は困難となります。

月見橋は、福崎町橋梁長寿命化計画に基づきまして、平成26年度に橋梁点検を行っております。判定は健全度が3でございます。判定3の橋梁につきましては、5年以内に修繕が必要ということになっておりますので、平成29年度に修繕設計を行っております。今後、社会資本整備総合交付金の配分がありましたら、平成31年度で修繕工事を実施いたします。橋梁の長寿命化を図りながら、駅へのアクセス道路の整備については引き続き検討を進めてまいります。

牛尾雅一議員 ぜひよろしく願いいたします。

続きまして、特別指定区域制度についてでございます。現在、町内の特別指定区域は、自治会別で見ますと28地区あると思っております。用途については、地区ごとにそれぞれ異なりますが、現在、指定されていない地域や、地域からはどのような指定の要望があるのでしょうか。また、何らかの理由で今の指定を解除していただきたいとか、そういった要望があるのかどうか、ご報告をお願いいたします。

まちづくり課長 市街化調整区域におきましては、人口維持施策として特別指定区域制度を推進しております。平成27年度に各自治会にヒアリングを実施して、変更や拡大の要望を取りまとめまして、県と協議を重ねてきました。その結果、平成28年度に12地区の地縁者住宅区域の変更、平成30年度に2回に分けて13地区の地縁者住宅区域の変更及び6地区の新規居住者区域の設定、並びに3地区の特定区域を新たに設けております。約4年をかけまして27年度に実施した各自治会のヒアリングの変更要望をほぼ解決できました。

自治会から指定解除の要望につきましては特に聞いておりませんが、今回、土砂災害特別警報区域に指定された箇所については、地縁者区域等から除外を行っております。今後も市街化調整区域の課題解決のツールの一つとして、前回変更要望のなかった5自治会を含めまして適切な時期に再度ヒアリングを行って、特別指定区域制度の活用を図ってまいります。

議長 一般質問途中でございますけれども、暫時休憩をとりたいと思います。
再開につきましては10時45分といたします。

◇

休憩 午前10時28分

再開 午前10時43分

◇

議長 それでは、再開したいと思います。
引き続き牛尾議員、質問をよろしくお願いいたします。

牛尾雅一議員 ただいま課長より特別指定区域についての答弁をいただきました。市街化調整区域におきましては、人口減が続いている地域がかなりあるんじゃないかと考えておりますので、制度の有効な活用、またご指導なりをよろしく願いたいと思います。

続きまして、3点目、前回の質問についてでございます。

前回の9月議会でご質問をさせていただきました2つの案件、1つ目、学校教育施設の空調設備更新、2つ目、危険ブロック塀対策について、お尋ねしたいと思います。

まず、学校教育施設の空調設備更新についてでございます。これは、7月の猛暑日に愛知県豊田市で校外学習からエアコンのない教室に戻った小学1年生の男児が熱中症で亡くなりました。この事件を受けて、町内の生徒さんや保護者の方、また祖父母の方はもちろん、全国的に早急なエアコン設置を求める声が大きくなりました。その多くの要望を受けて、私も前回質問をさせていただきました。国の動向といたしましても、国民の多くの皆様の声に応えるべく、国民の生命を守るための緊急対応として、国は補正予算を計上され、空調設備更新の補助金を拡充され、エアコン設置の前倒しを地方自治体へ促進されたところでございます。

今回、町は補正予算を組んでいただいて、全小中学校普通教室にエアコンの設置を提案していただき、大変感謝をしております。当町の学校教育施設のエアコン設置について、全体の事業計画と具体的なスケジュール、進捗状況も含めてご報告をお願いいたします。

学校教育課長 全体的な動きといたしましては、この議会での議案の提案説明のとおりでございます。具体的なスケジュールという点でございますが、今議会で補正予算を成立させていただいた後、現在進めております小学1、2年生及び中学3年の普通教室で進めてきております実施設計業務委託契約につきまして、変更契約により直ちに全普通教室対象に切り替えて実施設計を進めてまいります。その上で、実施設計の進捗を見て、空調設備設置工事の一般競争入札にできるだけ早く入り、請負者との仮契約を経て、福崎町議会に上程させていただきたいと考えております。また、現在の進捗といたしましては、先ほど申し上げたように小学1、2年生、中学3年生の普通教室を対象に実施設計を進めている状況でございます。

牛尾雅一議員 福崎町の早急な対応、また、ご英断に感謝を申し上げます。よろしく願いたいと思います。

次に、危険ブロック塀対策についてでございます。これは6月に大阪府北部地震により大阪府高槻市で公立小学校のブロック塀が倒壊し、登校中の小学4年生の女児が亡くなりました。その事故を受けて、今回、国の補助金もあり、民間の私有地の危険ブロック撤去についても補助対象となり、今回、町では15件分の予算を補正予算に計上していただいておりますが、民間からの要望が多くあり、15件を超えた場合、またその後についてどのような対応をしていたのか、お尋ねをいたします。

まちづくり課長 申請が15件を上回った場合でございますが、3月の補正予算の対応、もしくは予算の流用の対応でお願いしたいと考えております。それと、今後のお話でございますが、来年度も継続するかについては、町単独事業での継続は考えておりません。県に補助事業が継続するかどうかの現在確認をしておりますが、未定であると聞いております。その内容を聞いて対応を検討してまいります。

牛尾雅一議員 町道、また里道に面した私有地内のブロックが多くあると考えますので、住民

の方々の安全のためにご配慮をよろしくお願いいたします。

私は、今まで毎回一般質問をさせていただきました。質問内容が重複したりして、理事者の方々、議員の方々にご迷惑をおかけいたしました。この場をおかりいたしまして、おわびを申し上げます。

これで、私の一般質問を終わらせていただきます。どうもありがとうございます。

議長 牛尾雅一議員の一般質問を終わります。

次、3番目の通告者は、城谷英之議員であります。

質問の項目は

- 1、消防団の活動について
- 2、福崎町防災マップについて
- 3、県道中寺北条線について
- 4、学校教育について

以上、城谷議員。

城谷英之議員 ただいま議長の許可をいただき、議席番号13番、城谷英之、通告書に従い、一般質問をさせていただきます。

まず最初に、消防団の活動についての質問に入る前に、消防団の活躍について、皆様に一言お礼を申し上げたいと思います。全国消防操法大会において、準優勝、第3位という輝かしい成績をおさめました。この結果は、橋本町長を初め理事者の皆さん、各議員の皆さん、町民の皆様の一人一人のご理解、ご協力のおかげだと思っております。本当にありがとうございました。もちろん、出場選手はもとより、消防団員、本団幹部、村、学校、何より選手を支えた家族があつてなし得た快挙だと思っております。

この全国消防操法大会は、おっちゃんらの甲子園とも言われ、小型ポンプ操法ですと4年に1度、それも兵庫県ですと町大会、中播磨大会、県大会と高いハードルになっております。それも1位しか通過できません。昔、消防団に話したことがあります。勉強でも仕事でも日本一になるのは非常に難しい、そんな話をしたことがあります。おまえらやったら、操法やったら日本一になれるんとかうか、そんな話をしてから約10年で、第22回全国消防操法大会で優勝、4年前、第24回操法大会で準優勝、そして、今年、第26回大会で準優勝、第3位という成績をおさめてくれました。

操法大会、私も行かせていただいたんですが、10月16日に富山県に入りました。17日に呉羽消防署、分団員さんにお世話になり、呉羽消防署で事前練習をさせていただきました。その後、大会会場へ入ったわけなんですけど、火点が前方へ80センチ、左へ20センチ、このようにずれておりました。大会会場は立入禁止であります。でも、福崎町消防団は80センチ手前、20センチ左ということがわかるんです。別にメジャーで測ったのではなく、地方大会、この地方でされる大会ではそういう間違いは非常に多いことなんですけど、その下見をした後、近くでその対策について練習いたしました。それから激励交流会のほうに入ったわけなんですけど、水前寺清子さん、菅原文太さん夫人菅原文子さん、富山県出身室井滋さん、数名の著名人の方が激励に来られておりました。鈴木総務副大臣、石井富山県知事、秋本日本消防協会長の挨拶の後に激励会が行われました。そこに、消防長官がおられまして、なぜかわからないんですけどサインをくださいと消防団と私のほうで言いましたところ、書いてくださいました。そのときに、そのTシャツに兵庫県と書いてあったんですけど、兵庫県のどこですかという話になりまして、兵庫県の姫路の近くですとい

うお話をさせていただいたんですけども、姫路市というのは私が幼いころいたのが姫路市ですという話をされました。姫路市の少し北の福崎というまちなんですよというお話をさせていただいたところ、私の祖先が眠るまちでありますと、そのようにお答えくださいました。もうびっくりしたというか、姫路市とは言うてはりましたが、そんなゆかりのある方が消防防災のトップにおられる、ある意味で感動をいたしました。帰って橋本町長に報告したわけですが、手帳にしっかりとメモされて、今度、東京に上ったときに挨拶に行くと、このように申されておりまして。さすが橋本町長だなと、ただでは済まない、次のことを考えておられるんだなと、そのように感心をいたしました。

その黒田消防庁長官は、就任の挨拶の中で「終即始という言葉がありますが、明治神宮武道場の名誉館長座右の銘に終即始があります。本来、武道における残心を意味するもので、事に当たって全力を尽くし切った瞬間、抜かりなく次に起こり得ることへの準備を始めるという教えであり、この言葉を胸に一日一日努力してまいります。」との挨拶でありました。私たちにサインしてくださったのも、終即始、その言葉でありました。

大会は、福崎町の出場から大粒の雨になり、雷雨とどろく中、福崎町の演技が終了いたしました。その後も淡々と競技が行われ、豪雨のため、観覧者は少なくなり、その中でも豪雨の中、平常心で行った滋賀県日野町消防団が優勝されました。閉会に当たり、秋本日本消防協会会長は、「全国で活躍していただいている今の消防団を象徴する操法大会ではなかったか。」そう評価され、各地で頻繁に起こる災害に、これに尽力される消防団の活躍を涙ながらに語られておりました。

結果、準優勝という成績でありましたが、最初、20センチ、80センチと言ったわけなんですけど、大会当日には直してありました。恐らく福崎町対策ではなかったかなと、このように私は思ったわけなんですけど、大会自体、完全アウェーの中、操法大会が行われたように私は感じました。

話はY o u T u b eのほうに入るんですけども、Y o u T u b eで福崎町消防団と検索をすれば、いっぱい出てまいります。8年前の優勝した第22回の画像では16万回アクセス、準優勝のときには2万1,000回のアクセス、なぜか2年前の県大会には48万回のアクセス、ほかにもたくさんの画像が見られております。

2年前の第23回全国消防操法大会、これは長野県であったんですけども、私、行かせていただきました。競技されている中で、福崎の操法を取り入れた分団が非常に多かった。今年もやはり多くの分団が取り入れられておられました。それだけ注目度も高いと思います。消防団がこれだけの成績、まちでもっと活躍をした形で全国的に防災面でも発信をしていただけないか、お尋ねいたします。

住民生活課長 議員、先ほど言われましたように、操法大会では全国大会に出場され、優勝、準優勝という非常に輝かしい成績をおさめられております。福崎町が全国的にも有名になっております。こうしたことをきっかけに、操法だけではなく、消防団活動全般について広報やホームページなどにより広く発信していければというふうには考えております。

また、最近では火事災害よりも風水害による被害が懸念されております。こうした中、地域におけます防災訓練を実施するなど、消防団が活躍する場は多くございます。こういった消防団の活動、また消防団員の活躍を多方面に発信できればというふうには思っております。

城谷英之議員 4年前、ポンプ自動車の部で優勝された鳥取県江府町消防団では、町のホームページに載っております。町長は、東京に上ったときに挨拶に行きますと言われておりましたが、何か防災面で役に立てたらという、そういう思いで町長は言われたんだと、僕はそうに思います。今回、あれだけの補正予算を組んでいただいて、全国大会で準優勝、これで終わっては何か、もっとほかのことができる、町長はそのことを思い東京へ行かれる。その中で全国大会で、ああ、終わったな、よかったなということではなく、町としてもっと全国的に発信をしていただきたい。このように思います。

福崎町消防団は、今、話をさせていただいたように操法が得意な分団。豪雨の中、ごうごうと川が流れる中、土のうを積み上げてくれる消防団。避難勧告が出たときにお年寄りを背負って避難所へ連れていってくれる消防団。いろんな消防団の形がありますが、これが地域でなくてはならない福崎町の消防団だと、このように思います。

今年は、台風が非常に多くきましたが、被害が少なく済みました。今回の台風では、第1号指令のままという形が非常に多かった。この指令は誰が出されているのか。また、被害が出てから、3号指令にいきなり切りかわることもある。近年の豪雨災害を見ると、河川の水位だけで判断されるようにも思います。どう思われるでしょうか。

住民生活課長 水防指令の発令につきましては、これは兵庫県のほうで行われておるものでございます。この発令につきましては、河川の水位だけではなく、台風の接近のためとか、また大雨警報発令のためのなどによります水防指令が発令されるというようなこともございます。

城谷英之議員 県が発令した指令だけではなく、福崎町の状況を踏まえて判断をしていただきたい。いきなり3号が出たんでは、もう間に合わない。そのような状況があります。ぜひとも町単独でも指令に対して行っていただきたい。

水防の手当について、通告書の中で条例と書いておったんですけども、これは水防出動計画の間違いであります。訂正をお願いいたします。

その出動計画では、第2号、第3号の指令でしか出動手当は当たらない。1号指令でも、分団によっては自主出動で警戒に当たっている分団もあります。この出動手当等、何らかの形で、警戒してくれている消防団に手当等は出せないのでしょうか。

町長 もう議員もご承知のように、普通交付税の中に消防費というそういったような費目がございます。その費目の中で常備消防と非常備消防に分かれるわけがありますけれども、その非常備消防をもとにしたような形で、今、配分をさせていただいておるところであります。当然、消防本部、またOBの方々、そういったような方々が協議をしながら現在の出動計画等々をつくっていただいております、それら等、必要とあればそういったような方々に集まっておいただき、それら等、もとは先ほども言いましたように普通交付税における非常備消防といったような形が原資になってくるといったように思います。

私が言うまでもなく、福崎町は小さいですけども、やはり危険な場所がございます。実質的な形の中での自然災害、地形が違いますので、それぞれの役割は違ってくるというような形になろうかと思うわけがありますけれども、その中におきます分野、また出動範囲等々につきましても、そういったような消防本団、または消防OBを含めた形の中でのそういう判断を仰ぎながらといったような形で決定をされればというように私自身はそう思います。

城谷英之議員 町長が答弁されたら、ちょっと予定しとったんは災害救助費とあって、二百何

十万円組んであったのに、消防団には出ないちゃうんかって言いたかったけど、町長が言ったらちょっとこうテンション落とさないかんようになりまして、ご検討のほどよろしく願いいたします。

次に、消防団は毎月ポンプ点検と消火栓の点検、これを行っておりますが、この福崎町において消火栓の種類と、ふた、鍵ですね、これはどのくらいあるのか、お尋ねしたいと思います。

住民生活課長 消火栓のふたの種類につきましては、角形のものが3種類とそれから丸型のものの1種類の計4種類ということでございます。開栓用のハンドルになりますが、こちらにつきましては、大きくは角形消火栓用のものとそれから丸形消火栓用のものということの2種類ということでございます。

城谷英之議員 昔、大きな火事があり、3名の尊い命が失われました。それが6年前。そのときに、釜坂元議員がおられて質問されたと思うんですけども、そのとき、決して消火栓のせいだとは思いませんが、いろんな形で、今、入札等々で消火栓の種類も変わっている。今、答弁いただいたように大分統一にはなっているんだと思うんですけども、区長会とかそういうところで、消火栓の取り扱いが違うこと、そういうところは町のほうから指示なり注意なり、そのような形は出ているのでしょうか。

住民生活課長 当然、各分団につきましては、分団長会議のほうでもお知らせをしておりますし、区長会につきましては、前回の区長会の総会におきまして、こういった4種類のものがございますので、各住民の自主防災訓練のときには周知していただきたいというような旨でお知らせをさせていただいているところでございます。

城谷英之議員 特に交通量の多い国道辻川交差点横、辻川西交差点の横では、道路の真ん中に消火栓があるんですね。日曜日の朝に分団員が点検をされているのですが、車の通行が非常にやっぱり国道なんで多い。危険である。これは移動とかそういうのはできないのか。もし移動できないのであれば、周りの消火栓なりにホースを1本なり2本なりつなぐとか、消防団への安全対策もありますし、非常時に使う消火栓について何らか方向はないのか、お尋ねしたいと思います。

住民生活課長 ご質問のありました辻川交差点の南側にある消火栓につきましては、非常に危ないということで、こちらも要望を既に受けておりまして、歩道のほうにできれば移設できるような方向で考えていきたいというふうには考えております。

城谷英之議員 できれば早急に行ってもらいたいんですが、この移設には大分の費用がかかると聞いております。でも、何もしないではやっぱり済まないと思うんで、少しずつでもやっぱり進めていただきたい、このように思います。

続いて、防災マップの見直しについての質問に入ります。

近年、局地豪雨や地震、台風など自然災害が頻発し、地域防災力の強化が課題となる中、注目を集めております。岡山では西日本豪雨災害、近くでは芦屋市の高潮被害、11月2日に9月の台風21号で高潮被害に遭った芦屋市南芦屋浜地区について高潮浸水予測地域がないとしたことから2007年に公表されましたハザードマップで測量に誤りがあったと明らかにし、県は測量ミス住民に謝罪し、地盤沈下の進行とあわせて危険性が高いと見て、浸水想定を見直すとし、地盤沈下で国の設備基準を下回った護岸を来年から上げる方針を示されております。

現在、福崎町に配布している福崎町防災マップは何年に作成したのか。また、その当時の基準と今の基準ではどのような点が違うのか、お尋ねいたします。

まちづくり課長 現在の防災マップにつきましては、平成26年3月策定のものでございます。国では水防法を改正しまして、河川の浸水想定区域対象降雨を河川の整備の目

標とする降雨から想定し得る最大規模の降雨に変更いたしまして、市川の浸水想定区域につきましては、6月8日に公表しております。県ではさらに市川の支川である七種川、平田川、雲津川、西谷川についても浸水想定区域を調査しまして公表するとしております。

また、土砂災害特別警戒区域、レッド区域につきましても、福崎町内は6月29日に指定をされております。

さらに、第三防災倉庫の追加でありますとか、災害対策基本法の改正によりまして、避難所の定義が明確化されたため、現在、避難所としている公民館などの指定の見直しを検討いたします。これらの区域を防災マップに適切に反映していくことが必要だと考えております。

城谷英之議員 この福崎町防災マップの役割については、どのようなお考えでおられるのか。

また本年度作成予定とお聞きをしましたが、進捗状況をお願いいたします。

まちづくり課長 防災マップの役割でございますが、町では自分の住んでいる地域が浸水や土砂災害の可能性を有していることを住民に認識してもらいまして、ふだんから、経験したことのない大雨が発生した場合、どこへ避難すればよいのか、防災意識の高揚や的確な避難行動をとっていただくための啓発が重要であると考えております。

なお、平成30年度の当初予算で防災ハザードマップの改定の予算をいただいておりますが、県の市川の支川に係る浸水想定区域の策定作業が平成31年夏ごろまでかかると聞いております。県とは災害に応じた避難所や避難経路の設定方法などの協議や検討を進めまして、住民の皆様にごできるだけわかりやすいハザードマップの作成方法についても研究を重ねながら改定の準備を進めておりまして、防災マップの策定につきましては平成31年度中を予定しております。

城谷英之議員 お年寄りにもわかりやすい福崎町の防災マップ、これをお願いいたします。できましたら、今、課長が答弁されたように、自分の住んでいる地域、マップの見方とかそういうのを説明に行っていただけたらお年寄りは非常にわかりやすいし、どうしたらいいかというのもわかりやすいと思うので、できたら行政懇談会も含めまして、ミニデイですとかいろんなことがあると思うんですけど、そんなんで行っていただけたらなと思うんですけども、どうでしょう。

まちづくり課長 今おっしゃいました行政懇談会の場、それから出前講座、そしてそういう説明の機会、要請がありましたら、できるだけそういった見方についても説明をする機会を設けたいと思います。

城谷英之議員 安心をいたしました。

次に、県道中寺北条線、県道410号線について質問いたします。

この県道中寺北条線は加西市では拡幅工事、通学路、グリーンベルトとしてあるんですが、前から区長会等で要望もされており、先般の行政懇談会でも要望が上がっておると思います。何らかの改善策、これはないのか、お尋ねしたいと思います。

まちづくり課長 県道中寺北条線の拡幅要望につきましては、例年区長会から出されております。その都度、県に要望しております。また、余田区の行政懇談会でも拡幅要望が出されました。これを受けまして、県の職員と改善が可能な箇所はないか現地調査を行っております。その中で、西ヶ首池の南あたりで、ほ場整備でできた県道の路肩部分の町有地、こういったものを活用しまして路肩を改良する。それと、草が伸びて視距が悪くなる城谷医院の南側の一部などに防草シートを設置するというので、あと、道路事業ではございませんが、里山防災林事業を

現在進めておりますが、宮ノ池の南側の山林のカーブ部分、この視距改良のために竹林の伐採を実施いたします。これは暫定的な対応であります。こういったものの効果も確認しながら、可能な対応を行っていき、そして道路拡幅については引き続き県に要望してまいります。

城谷英之議員 約何年ですかね、長いこと県道中寺北条線は進んでないんですよ。八千種地区の方にしたら本当に県道なのかと思われるようなところがありまして、ぜひとも橋本町長にかわったからこう進めた、技監が来られたからこう進めたというように、ちょっと進めていただきたいと、県に要望していただきたいとこのように思います。

また、この県道中寺北条線ですが、八千種の信号、これ10時を回りますと点滅信号に変わります。夜中どんという音とともに交通事故等が頻発、頻発というか、起きております。昼間は警察官の方は一旦停止を見に、向こうのバイパスのほうで一旦停止をずっとはられとんですけれども、こういう信号、やっぱり夜ですからスピードも出ますし、大きい事故にもつながります。このようなことをちょっと警察のほうに要望していただけないのか、お尋ねいたします。

住民生活課長 こちらの信号機の夜間点滅につきましては、警察に確認しますと、交通量が少なく、交通の円滑化という観点から現在点滅にされているということで聞いております。一定時間で切りかわる通常点滅の信号への要望ということでございますが、地域の総意ということで町のほうへ要望をいただきましたら、町のほうから警察のほうへ変更の要望ということではさせていただきたいと思っております。

城谷英之議員 先ほど話したように、昼間こう入ってこられるのは安全でいいんですけど、何か最近は一歩停止を、罰金を取るための警戒かいなと思われるほど非常に警察の方、いや、入っていただくのは防犯面とかいろんな面でいいんですよ。いいんですけども、何か違うことかなというような感じが非常にするんで、またその辺もちょっと1回話しといてください。そら入ってもうて事故が少ないんが一番もちろんいいんです。交通違反を取り締まる、それが一番いいんですけども、何かちょっと違うような感じで、マイク等で聞こえてくる声は違う声だったと思います。

質問は次、学校教育課のほうに入りたいと思います。

11月17日に行われたきらきら発表会を見にいったまいりました。昨年は6年生が春日城について、今年は八千種小学校の6年生が「町の幸福論～福崎町の未来を描いて～」を課題に発表をされていまして。まちの幸福論は、コミュニティデザインの第一人者山崎亮の著書であり、地域の課題をそこに住む人が解決すること、住む人の心の動き、まちと関わるようになれば地域は少しずつでも変えていける。日本のまちがこれまで抱えてきた数々の問題点を鋭く切り込む内容であります。経済成長を経て、まちの公共空間はどのように変容してきたのか。住居も建物も余り始めた地域ごとにどのような手術が必要か。ソフトへの予算と評価の現状はどうなっているのか。集落はどうして消えていくのか。緩やかな時代の変化とともに胎動する多様な豊かさや生活感を支えるためにまちと生活者のあり方を考える、このようなことを6年生が勉強したように思います。

八千種の子どもたちは6つの未来の福崎町について描きました。妖怪のAIを取り入れて人々を楽しませる福崎町。全ての年齢の人が親しむまち、福崎町。外国人が好きになってくれるまち、福崎町。各地よりたくさんの人々が集まってくれるまち、福崎町。全ての人が自然に親しむ福崎町。災害が起こっても安

心して暮らせるまち、福崎町。子どもたちは福崎町の未来をこういう形にしたいと考えるとのことでした。そうするにはこうしたらい、ああしたらい。いろんな考えを出してくれていました。この6つから見ても福崎を愛しているというのが非常にひしひしと伝わってきました。

子どもたちが描いた福崎町をどう思われるのか。バックキャスティング、まず未来を描き、そこから現在に振り返って、今、やるべきことを見つけていくという手法であります。教育長のバックキャスティング、これはどうなんでしょう。お尋ねいたします。

教 育 長 まず、発表会後に行われました参加者によるアンケートを見ますと、93%の方が、子どもたちの発表が非常によかったと、こういう評価をいただいております。ちなみに、よくなかったはゼロ%でした。また、発達段階においた内容で感動した、ご指導の先生方に感謝をします、環境や地球の未来、自分自身の未来などについてしっかり考えていることがよくわかり、頼もしかった等と意見を聞いております。きらきら発表会に対する児童・先生方の活躍を評価いたし、うれしく思っております。

その中で、6年生の子どもたちは今、自分の住んでいる福崎町について、いろんな角度から、いろんな方々の意見を聞きながら、先ほど議員さんがおっしゃいましたように6つの未来像をまとめております。それを受けまして、私はこのように考えております。

私は、1つ目は、命を大切に、学力の向上を願っています。夢は持つだけでなく、実現させてほしい。その基盤は学力にあると思います。知・徳・体・食育を中心とした福崎町が推進している生きる力をつけてほしい。まず、学び続けてほしいと思います。

2つ目、福崎町に定住をお願いしたいと思います。ふるさととは遠くにあつて思うものではなく、近くにあつてつくるものです。働く場所の拡充も必要ですが、納税の義務を果たし、町外に出てもふるさと納税をするなど、福崎町の財政支援をお願いしたいと思います。

3つ目、協働の精神を実施してほしい。考え方を共有し、人権を保障しながら助け合いの精神でみんなで取り組んでほしい。

4つ目、若い発想でまちの特色を考えてほしい。福崎町では、妖怪ブームが人気を擁していますが、新たな目玉となるものを考え出してほしいとも思います。

5つ目、人の拡散を考えてほしい。我がまちでは、自律のまちづくりを進めてまいりました。この基盤の上に自律の律を立に変えた安全で安心の自治会づくりの提案者あるいは立て役者になってほしいと思います。

6つ目、自分たちの未来は、自分たちで構築してほしい。私たちは力の限り応援します。そして将来は町長や議会議員になられて、自分たちの手による自分たちのための自分たちのまちづくりを期待いたします。発想は地球規模で、その実現は足元から。福崎町の未来は明るいです。

城谷英之議員 ありがとうございます。また、創意と工夫、輝く、活力ある福崎町を目指しておられる橋本町長、どういう未来像なり持っておられますか。お尋ねしたいと思います。

町 長 もう私の基本は今現在持っております福崎町第5次総合計画を基本としたような形の中で「活力あふれ、風格のある、住みよいまち、～住んで、学んで、働いて未来につながるまち」今まさに教育長が言われた事柄につながると思います。土地利用でありますとか、そういったような形の中、また企業のあり方、雇用のあり方、将来における土地利用、特に1次産業の農業の部分、これら等

は、この農業は当然として農地をといたような形だけではなく、地域の環境を守ってもらっていると、そういったような形にもなっておりまして、将来どういったような位置づけでそのような形の中で守っていかなければならないのか、子どもたちにも同じように考えていただければというように思っております。

難しい話をしますと、子どもたち、すぐに嫌がって、考えるのはちょっと迷う場合があるわけでありまして、今現在、見ておる部分でどうですかという聞き方をすればまた違った形の答えが返ってくると思うわけでありまして。例えば、工業団地、福伸電機さんにおける分野、マンダムさんにおける分野、AIを中心としたような形の中で自動化に変わってきております。これら等は反対に雇用問題にも直結するといったような形にもなるわけでありまして、それら等を踏まえた上での分野、それら等が、どのような分野を動かすとどこに影響を与えるのか、そういったような事柄も子どもたちと一緒に考えられればというように思っております。

いずれにいたしましても、10年後の基本はこの総合計画にあるわけでありまして、これら等を着実に邁進するのは私の使命かなというようにも思っておりますし、できたら子どもたちとこの総合計画をもった形の中で話し合いというんでしょうか、そういったようなものも行いたいなど。まちづくり行政委員会ではないわけでありまして、そういったような形の中で話ができる機会があれば、そういったような事柄について私の思いも子どもたちに伝えていきたいというように思っております。

福崎町の未来を描きましょうといったような近未来的なもの、遠い将来的なもの、それら等をどういったような形で求めていくのか、今、質問議員が言われましたようにバックキャスティングですか、そういったような未来を描いて、それに求める手順といったようなものの必要性、そういったようなものもつくっていかなければならないのかなというように思っております。福崎町、非常に文化が高い、またそういったような形の中でいろんな文化が福崎町の中にはあります。八千種地区、田原地区、福崎地区、高岡地区、それぞれに文化があるといったような形の中で学んでいただければというように思います。

城谷英之議員 八千種の子どもたち、この福崎町の子どもたちが描いている福崎町を少しでも知って、今、町長から答弁いただいたように、またその総合計画を含めて子どもたちとも話できたらと、そのお答えをもらえたのが非常によかったと、このように思います。教育長もありがとうございました。

以上で、一般質問を終わらせていただきます。

議長 城谷英之議員の一般質問を終わります。

本日の一般質問は、これにて終了いたします。

以上で、本会議3日目の日程は全て終了しました。

本日はこれにて散会いたします。お疲れさまでございました。

散会 午前11時33分